

足柄上地区の
災害時救急医療対策を
考える



足柄上地区の災害時の救急医療
に関してはこれから具体的な検
討に入ることになっていきます
が、南足柄市で行われた防災訓
練をもとに足柄上地区全体の災
害時救急医療対策を考えて見ま
した。

(一) 南足柄市の防災訓練
(医療関係者だけについて)

医療救護活動

(市営グラウンド)

神縄・国府津 松田断層の直
下型地震 マグニチュード7
5を想定。

九時三十分

打合わせ準備開始

十時十分
初期体制活動開始
(地元中心)

総合指揮、トリアージ
(対象者の緊急度選別)

治療部(赤、黄、緑、歯科)

医師四名、看護師七名、歯

科医師三名、救急救命士二名、

事務二名、薬剤師二名、その他

一名。

十時三十分

応援到着後

医師十二名、歯科医師十六

名、看護師十九名、救急救命士

九人、事務八名、薬剤師三名、

その他三名。

このメンバーで模擬患者約五

十名に対応した。



多数遺体取扱い訓練

(こどもセンター)

医師二名

(死亡の確認、遺体の処置)

歯科医師二名

(個人の確認、歯型の記載や

レントゲン撮影)



警察官七名、市職員その他
(葬儀社員など) 十六名南足柄
市で二五〇名の死亡が出る想
定。



(二) 地震時の救護体制

もし、この地震が起きた時、
市の救護所は保健センターにつ
くられます。

そうするとまずそこに医師四
名、遺体施設に二名、この訓練
の型ですと六名の医師が必要と
なります。

また、この地震では中井町三
十名、大井町一〇〇名、松田町
八十名山北町八十名、開成町一
一〇名の死亡が想定されていま
す。

この数字はオーバーではない
かと私は思いますが、本当とす
ると、各町で、亡くなった人の
対応の医師が、一人ずつ位は必
要ということになり救護所に三
名としても、各町四名位は必要
です。計一市五町で二十六名の
医師が最低必要ということにな
ります。二十六名というのは、
そういう非常時に動ける最大の人
数かも知れません。



南足柄市を例にとれば、市保
健センターに設置される救護所
と救急病院である大内病院の
二ヶ所で、救護活動することに
なりそうです。

他の五町も町の救護所+1医
療機関という配置になります。

足柄上病院と秦野日赤病院が
拠点病院とされています。

広域避難所などでの救護活動
をどうするのか、これがこれか
らの問題です。幸いにこの地区
では災害時救護は三師会(医師
会、歯科医師会、薬剤師会)で
協力して行うことになっていて
歯科医師会、薬剤師会の方々が
熱心なので良い体制が作れると
思います。



写真撮影
看護師 鈴木 弘美

院長

9月・10月の休診日

休診 日曜・祭日
午後休診 水曜・土曜

E・メールを送って下さい。
norikazu@okutu.jp



みなさんの質問や投稿を
お待ちしております。
受け付けからのお願い
月初めには必ず保険証を
受け付けにお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。
編集に当たり校正には十
分注意致しましたが、誤字・
脱字等がありましたらご容
赦下さい。